

平成30年度第1回呉市教科用図書（中学校「特別の教科 道徳」）

選定委員会 会議録

日 時	平成30年5月9日（水）13:00～14:30		
場 所	呉市役所8階 851会議室		
参加者	呉市立中学校長会長	松田 恭尚（昭和北中）	
	選 定 委 員 会	保護者代表 山本 浩司 吉中 由美子	
	学識経験者	吉長 成恭	
	校 長	大平 栄子（両城中）	細川 司（安浦中）
		大下 孝之（仁方中）	土井 忠則（東畑中）
		斎藤 美由紀（警固屋中）	竹上 和徳（呉中央中）
		九十九 尚志（横路中）	荒谷 政俊（豊浜中）
		湊 和昭（阿賀中）	上垣内 雄治（郷原中）
		播磨 寛宗（片山中）	
	教 育 委 員 会 事 務 局	教育部長	小川 聡
学校教育課長		高橋 伸治	
学校安全課長		栩田 隆志	
学校教育課課長補佐		安部 ほずみ	
学校安全課主査		畠藤 晃	
学校教育課主査		川原 亜弥	
学校教育課主任指導主事		久保 由佳利	
学校教育課指導主事	番本 充俊		
傍聴者	船尾 慎（教育委員） 香川 治子（教育委員） 佐々木 元（教育委員）		
内 容	<p>1 平成31年度使用教科用図書（中学校「特別の教科 道徳」）の採択の手順及び選定委員会の任務等について</p> <p>2 議事</p> <p>（1）委員長及び副委員長選出</p> <p>（2）教科用図書の調査・研究の観点等について</p>		

委員長選出までの司会を久保主任指導主事が行うこととし、委員会は定刻に始まった。

◎ 呉市教育委員会小川教育部長の挨拶

- ・教科用図書の採択について
- ・教科用図書採択に係る誤記等と改善策について
- ・選定委員会の今後のスケジュールについて
- ・情報の公開について

平成31年度使用教科用図書（中学校「特別の教科 道徳」）採択の手順及び選定委員会の任務等について資料に基づき、久保主任指導主事から説明があった。

**（1）委員長及び副委員長選出**

委員長及び副委員長の選出を行った。立候補者がなかったため、事務局より中学校長会長の松田校長を委員長に、保護者代表の山本さんを副委員長に推薦し承認される。

**（2）教科用図書の調査・研究の観点等について**

司会を委員長に交代し、調査・研究委員会に示す「特別の教科 道徳」の観点等についての議事に入った。

## ◎ 事務局提案

安部学校教育課課長補佐より、調査・研究委員会に示す「特別の教科 道徳」の観点について、広島県教育委員会が定めた『平成31年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択基本方針について』に準じて作成し、広島県教育委員会が示す5つの観点と同一のものとする」と提案があった。

## ◎ 観点についての質疑応答

### ・細川校長

観点「基礎・基本の定着」について、道徳科における「基礎・基本」をどのようにとらえているのか。

### ・安部課長補佐

道徳科の目標は「道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」とあり、「道徳的価値についての理解」を「基礎・基本」ととらえている。また、これまでの各教科の採択において、「基礎・基本の定着」の視点として、「目標の示し方」や「理解を深めるための工夫」等が挙げられてきた。道徳科における「目標」は「主題」や「ねらい」にあたるため、「主題の示し方」やねらいに迫るための「発問の工夫」を調査していくことで、それぞれの教科書が基礎・基本の定着を図るために、どのような特色を出しているか調査・研究することができると考えている。

## ◎ 事務局提案承認される。

続いて調査・研究委員会に示す「特別の教科 道徳」の観点及び視点、方法について、片山中学校播磨校長から原案の説明を行う。

播磨校長の説明後、観点毎に質問や修正等に関する意見を受ける。

## ◎ 観点「基礎・基本の定着」について

### ・土井校長

視点①の「オリエンテーション」は、視点⑨の「巻頭」に当てはまるのではないかと。

### ・播磨校長

「オリエンテーション」は、確かに「巻頭」部分に位置しているが、「道徳科の学び方」を示すことは、道徳科の「基礎・基本」にあたる「道徳的価値の理解」を深める上で、より効果的である。したがって、視点①では、「オリエンテーションのタイトル、示し方、記載例」、視点⑨では、「オリエンテーション」以外の「巻頭」について調査・研究する。

### ・九十九校長

視点③で「発問の数」を調査・研究することだが、ねらいに迫る授業にする上で「発問の数」は関係あるのか。

### ・播磨校長

基本的には、「発問の内容」が重要であるが、どのくらいの発問数で授業を構成するかも大きなポイントである。発問の数が多ければよいとか、少ないからよくないという考えではない。調査・研究委員会が調査・研究したことをもとに、選定委員会で審議していきたいと思う。

## ◎ 観点「主体的に学習に取り組む工夫」について

### ・細川校長

視点④について、道徳科における「問題解決的な学習」とは、どのような学習ととらえればよいのか。

・播磨校長

「問題解決的な学習」とは、道徳的な問題について、「なぜそのように考えたか」といった根拠を問う発問や、「自分だったらどうか」と自分にあてはめて考えさせる発問、「真の友情とは何か」といった道徳的価値の意味を考えさせる発問などによって、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる学習である。

・九十九校長

視点⑤について、道徳科における「体験的な学習」とは、どのような学習ととらえればよいのか。

・播磨校長

「体験的な学習」とは、具体的な道徳的行為や役割演技などを通して、道徳的価値の意義や実際の問題場面を実感を伴って理解することで、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う学習である。

◎ 観点「内容の構成・配列・分量」について

・土井校長

視点⑦においては、教科書の「判型」を調査するとのことだが、意味はあるのか。

・播磨校長

教科書の大きさによって、文字の大きさや紙面のゆとり、写真やイラスト等から受ける印象も変わってくるため、読みやすさや内容の理解にも違いがでてくると考えられる。

・細川校長

昨年度、小学校の「特別の教科 道徳」の教科書採択をしたときの広島県教育委員会の選定資料を見ると、「情報モラル」については、調査・研究することとしていないが、呉市では「いじめ問題」と併せて「情報モラル」についても調査・研究することとしている。今回の中学校の視点⑧においても「情報モラル」を調査・研究することとしたのは、どのような意図があるか。

・播磨校長

「学習指導要領解説」には、「指導の配慮事項」の一つとして「情報モラルと現代的な課題に関する指導」が挙げられており、「生命倫理の問題」や「社会の持続可能な発展」等の「現代的な課題」とともに、「情報モラル」に関する指導の充実が求められている。また、「情報モラル」については、道徳の「特別の教科化」に関する議論の発端となった「いじめの問題」への対応とつながりが深い上に、どの発行者も取り上げていることもあり、「情報モラル」と「いじめ」の2つに絞って調査していく。

・斎藤校長

視点⑧に「現代的な課題等」とある。今の説明の他にどのようなことが考えられるか。

・播磨校長

性のことなど様々なことが考えられる。

◎ 観点「内容の表現・表記」について

・質問や意見なし

◎ 観点「言語活動の充実」について

・質問や意見なし

◎ 全体を通して

・竹上校長

視点③発問の工夫について、小学校は「ねらいに迫るための発問の示し方」としている。「ねらいに迫る」も大切な視点であるが、そこも踏まえているのか。

・播磨校長

発達段階の違いを含め、踏まえている。

・九十九校長

8者の教科書を見ると、「別冊ノート」が付いているものとそうでないものがある。今後、自

分もしっかり見ていこうと思うが、「別冊ノート」とは、どのようなものか。

・播磨校長

8者のうち、2者が別冊の「道徳ノート」を付けている。「道徳ノート」には、発問、自分の考えをまとめる欄、毎時間の振り返り、それぞれの内容項目等についての資料などが掲載されている。調査・研究委員会が調査・研究したことをもとに、「別冊ノート」をどのように活用できるか、あるいは「別冊ノート」のあるなしによって学習効果にどのような違いが出るのか等、選定委員会で審議していきたいと思う。

・細川校長

教科書が配付されると、「呉の道徳自作資料集」等は使えなくなるのか。

・播磨教授

教科書は主たる教材として使用するべきものだが、「学習指導要領解説」には、「各地域に根ざした郷土資料など、多様な教材を併せて活用することが重要である」と書かれている。したがって、「呉の道徳自作資料集」を活用したり、各学校で作成した自作教材を活用したりすることは可能である。また、今年度から全小中学校で実践を始めている「日本遺産を題材とした道徳学習プログラム」における道徳の自作教材も使用可である。

・土井校長

教科書が導入された場合、これまでの授業の中で活用していた「私たちの道徳」はどのような扱いになるのか。

・播磨校長

教科書が導入されると、「私たちの道徳」の国からの無償配付は終了となる。なお、文部科学省ホームページには引き続き掲載されているので、必要に応じてダウンロードして活用することは可能である。

◎ 中学校「特別の教科 道徳」の観点等については、原案通り調査・研究委員会へ示す承認を得る。

◎ 出席者から意見・感想

・吉長教授

今日決定した内容に基づいて調査・研究委員会で作業が行われる。大変ではあるがよろしくお願いしたい。

・山本副委員長

教科となり成績はつかないが評価はされると聞いている。道徳を学習したことの評価はどのような形となるのだろうか。例えば発問の工夫とあるが、どのように生徒の発言を評価していくのか。

・播磨校長

道徳においては評定、つまり数値化はしない。指導要録に記述をしていくようになるが、その記述内容が妥当であるのか、多面的・多角的に生徒をとらえ評価していく。授業者だけでなく、周囲の教員等の声をしっかりと集めることが必要である。学習指導要領解説を根拠に、それぞれの内容項目について生徒がどのようにとらえているのか評価していくようになる。

・吉中保護者代表

中学生は一番難しい年代である。自主的に動き始める分、大人の社会の矛盾を感じたりいろんな世界が見えてきたりする。保護者の立場からすると、観点「主体的に学習に取り組む工夫」の中にある「体験的な学習を取り入れた工夫」「自己の生き方につなげるための工夫」などをしっかり重視していただきながら、たくさんの中から選んでいただきたい。

◎ 播磨校長から公正を疑われる言動等がないように確認

久保主任指導主事が次回以降の予定について確認して、会を終了する。

平成30年度第2回呉市教科用図書（中学校「特別の教科 道徳」）

選定委員会 会議録

日時	平成30年8月2日（木） 15:00～16:30	
場所	呉市役所8階 756～758会議室	
参加者	呉市立中学校長会長	松田 恭尚（昭和北中）
	選 保護者代表	山本 浩司 吉中 由美子
定 学識経験者	吉長 成恭	
	委員 会	校長
教 学校教育課長		高橋 伸治
育 学校安全課長		栩田 隆志
委 学校教育課課長補佐		安部 ほずみ
員 学校安全課主査		畠藤 晃
会 学校教育課主査		川原 亜弥
事 学校教育課主任指導主事		久保 由佳利
務 学校教育課指導主事	香川 千恵	
傍聴者	森尾 敬介（教育委員） 船尾 慎（教育委員） 香川 治子（教育委員） 佐々木 元（教育委員）	
内 容	1 第1回選定委員会の協議結果についての確認 2 調査・研究委員会についての報告 3 議事 (1) 総合所見の様式等について (2) 総合所見の案について	

◎ 開会

久保主任指導主事が会を始めた。

1 第1回選定委員会の協議結果についての確認（進行：議長 松田校長）

・安部課長補佐

まず、第1回の選定委員会の協議結果について確認する。協議内容は、委員長及び副委員長選出と教科用図書の調査・研究の観点等についての2点であった。

1点目について、委員長には、松田校長が、副委員長には保護者代表の山本さんが選出され、決定した。

2点目の教科用図書の調査・研究の観点等について。配付している「総合所見（案）」の最初のページを御覧いただきたい。調査・研究委員会に示す特別の教科 道徳の観点について「広島県教育委員会が示す5つの観点と同一のものとする」と提案し、議決された。

調査・研究の視点及び方法について、いろいろな御質問や御意見が出され、「原案通り調査・研究委員会に示す」ということで議決された。

また、5月18日（金）に開催した第1回調査・研究委員会において、この観点、視点、方法及び第1回の選定委員会で協議した内容は、選定委員道徳部会代表の播磨校長から、委員の先生方に説明された。

◎ 協議結果についての質疑・応答

特になし

2 これまで行われた調査・研究委員会についての報告（進行：議長 松田校長）

・安部課長補佐

まず、本選定委員会が調査・研究を依頼している調査・研究委員会について報告する。「平成30年度第2回呉市教科用図書（中学校「特別の教科 道徳」）選定委員会—資料—」1ページの資料2「平成31年度使用教科用図書（中学校「特別の教科 道徳」）の採択手続について」の「3日程」を御覧いただきたい。5月から8月のところにあるように、これまでに、調査・研究委員会を3回開催した。

第1回の調査・研究委員会は、5月18日（金）に開催した。

はじめに、教科用図書の採択の手順及び調査・研究委員会の任務等の説明を行った。その後、「特別の教科 道徳」部会で、選定委員の播磨校長先生が選定委員会で決定した観点等について説明した。そして、報告書を作成するための調査・研究の進め方を説明し、役割分担を行った。

第2回の調査・研究委員会は、6月1日（金）に開催した。第2回では、各委員が役割分担した箇所を調査・研究した内容について全体に報告し、協議した上で、加筆・修正する作業を行った。

第3回の調査・研究委員会は、7月3日（火）に開催した。第3回では、第2回以降各担当が加筆・修正した箇所について全体で協議して修正を加え、視点ごとに主担当と副担当で誤字・脱字等のチェックを行い、作業を完了した。

その後、調査・研究委員会道德部会代表の姫宮校長先生から、7月19日（木）、選定委員長松田校長先生に報告書が提出された。机の上に置いてあるので御覧いただきたい。また、その報告書をもとに、選定委員会道德部会代表の播磨校長が、総合所見の原案を作成し、この後提案する。

◎ 報告についての質疑・応答

特になし

3 議事（進行：議長 松田校長）

(1) 総合所見の様式等について

◎ 総合所見の様式等についての説明

・安部課長補佐

総合所見（案）を御覧いただきたい。

右上にNo. 1と書いてある表紙には、校種、種目とともに、第1回選定委員会で決定し、調査・研究委員会に示した観点、視点、方法が一覧になっている。

No. 2「東書」には、選定委員会から調査・研究委員会に示した5つの観点について、視点ごとにその特徴がまとめて記載してある。それ以降は学図、教出・・・と中学校「特別の教科 道徳」は8つの発行者から発行されているので、8つの発行者についてそれぞれ同様に特徴が記載してある。

また、総合所見（案）の後半にはA3版の資料が付いている。これは、A4版に記載されていることを、視点ごとに見られるようにしたものである。参考にしてほしい。

また、No. 1の表紙の下の※印にあるように、観点ごとに特に優れていると考えられるものに【◎】、優れていると考えられるものに【○】を付けてある。【◎】【○】についても、No. 2以降の各観点の右下に原案として記載されている。

◎ 総合所見の様式等についての質疑・応答

・九十九校長

5つある観点ごとの比率は同等と考えて良いのか。

・安部課長補佐

5つの観点については、それぞれ大切な内容であると捉えている。したがって、それぞれの観点の傾斜等は考えていない。ただし、最終的に同等になった場合は、議論が必要ではないかと考えている。

(2) 総合所見の案について

◎ 各自で資料を読む時間をとった。(15時30分すぎまで)

◎ 原案の説明

・播磨校長

「特別の教科 道徳」の総合所見(案)について説明する。調査研究委員会から提出された報告書をもとに案を作成している。この総合所見(案)では、5つの観点から分析しているが、本日は、特徴がよく分かる観点2、観点3、観点5、この3つについて説明する。

なお、説明の中で、視点ごとの特徴の違いについても触れるので、必要があれば、お手持ちの資料に書き込んでほしい。

観点2について説明する。A3版の観点別の資料の2枚目、観点2「主体的に学習に取り組む工夫」を御覧いただきたい。

視点④「問題解決的な学習を取り入れた工夫」については、生徒が自ら進んで考えてみようという気持ちになるような工夫があり、学習の見通しをもてるものがよいとの考えから、光村、日文、学研を「優れている」とした。

光村の3年生の教科書、12ページの「てびき」。ここでは、「学びのテーマ」において、はっきりと問題を示した上で、「考える観点」や「見方を変えて」における発問を通して、問題解決に向けて話し合う活動を示している。

日文の3年生の教科書、46、47ページの「学習の進め方」。問題解決的な学習が可能な教材には、右上にあるような「電球のマーク」を付け、光村と同様に、問題解決的な学習を進める手順を示している。

視点⑤「体験的な学習を取り入れた工夫」については、役割演技や動作化など、体験的な学習を効果的に位置付けることで、生徒の道徳的価値の理解が一層進むとの考えから、東書、学図、教出、日文、学研を「優れている」とした。

学図の2年生の教科書、100ページ。ここでは、教材の終わりに「学びに向かうために」というコーナーを設けており、「考えよう」に示した役割演技を通して、登場人物の悩みを実感する活動を設けている。

学研の2年生の教科書、87ページ。ここでは、特設ページ「深めよう」を設定して、場面を演じた上で、話し合ったり気づきを書いたりするといった活動の手順を示している。

視点⑥「自己の生き方につなげる工夫」については、実生活に生かすための具体的な働きかけがあると、自己の生き方につなげて考えやすいとの考えから、東書、学図、光村、日文、廣あかつき、日科を「優れている」とした。

光村の3年生の教科書、12ページ。ここでは、教材の終わりに「てびき」を設けており、真ん中にある「つなげよう」において、教材と関連のある図書を読んだり、生活の中で学びを生かしたりするよう促している。

廣あかつきの3年生の教科書、154ページ。ここでは、4ページにわたって、情報モラルなどの現代的な課題に関する特集ページを設けている。

以上のことから、観点2については、日文を「特に優れている」、東書、学図、光村、学研を「優れている」とした。

観点3について説明する。資料の3枚目、観点3「内容の構成・配列・分量」を御覧いただきたい。

視点⑦「分量や教材の数」については、各者ともページ数や教材数に大きな差はないが、別冊ノートの有無や教材の配列の仕方については違いがあった。そこで、別冊がなく、教材の配列にしぼりのない方が、学習展開や年間指導計画を柔軟に設定しやすいとの考えから、東書、学図、教出、学研を「優れている」とした。なお、別冊ノートが付いているのは、日文と廣あかつきの2者である。

視点⑧「現代的な課題等を踏まえた内容の示し方」については、「いじめ問題」及び「情報モデル」に係る教材や特設ページをバランスよく設定している方が望ましいとの考えから、東書、学図、教出を「優れている」とした。

学図の2年生の教科書、44ページ。「いじめ問題」を扱った教材であることが分かるように右下にマークを付けたり、47ページにあるように、特設ページ「心の扉」を設けたりしている。

以上のことから、観点3については、東書、学図、教出を「特に優れている」、学研を「優れている」としました。

観点5について。資料の5枚目、観点5「言語活動の充実」を御覧いただきたい。

視点⑩「考えを伝え合う活動の工夫」については、「考え、議論する」道徳の時間にしていくために、それぞれの教材に、話し合いを促す発問や活動が示してあることが、効果的に話し合い活動を進めることにつながるとの考えから、学図、教出、日文、廣あかつき、日科を「優れている」とした。

教出の2年生の教科書8ページ。ここでは、教材の終わりに「学びの道しるべ」というコーナーを設けており、3番にあるように、話し合いを促す発問を示している。

日文の3年生の教科書99ページの3番。ここでは、話し合いを促す発問や、話し合いの例を写真と共に示している。

視点⑪「考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫」については、振り返りの回数や時期などについては、各者様々であるが、案としては、学期に1回程度の振り返りがあれば、生徒自身がその成長に気づきやすいのではないかとの考えから、東書、教出、日文を「優れている」とした。

東書の3年生の教科書185ページ。ここでは、学期末ごとに、授業での取組状況や印象に残った教材などについて振り返る切り取り式のページを設けている。

日文の3年生の教科書、別冊ノートを御準備いただきたい。ページ2の下の部分には、1時間の学習の振り返りをするコーナー、さらに、40ページには、学期ごとに振り返りをするページを保護者記入欄付きで設けている。

以上のことから、観点5については、教出、日文を「特に優れている」、東書、学図、廣あかつき、日科を「優れている」とした。

観点1及び観点4についての評価は、他の観点と同様に、「特に優れている」は◎、「優れている」は○で示している。

以上で、総合所見(案)についての説明を終わる。

## ◎ 原案についての質疑応答

### ・土井校長

観点1と観点4については説明がなかったので、簡単に説明してもらいたい。

### ・播磨校長

観点1について説明する。

視点①の「道徳科の学び方等の示し方」については、道徳の学習の進め方などのオリエンテーションの内容に工夫がある東書、日文、日科を「優れている」とした。

視点②の「主題名の示し方」については、主題名が明示されている東書、学図、日文を「優れ



ている」とした。

視点③の「発問の工夫」については、教材の終わりに3～4個程度の発問を示している東書、学図、教出、日文、学研、廣あかつき、日科を「優れている」とした。

以上のことから、観点1については、東書、日文を「特に優れている」、学図、日科を「優れている」とした。

観点4について説明する。

視点⑨の「巻頭・巻末等の取扱いの工夫」については、巻頭・巻末の内容が充実している上に、目次が読みやすい光村、日文、廣あかつきを「優れている」とした。

視点⑩の「教材の内容を理解させる工夫」については、マークが効果的に使用されている上に、4つの視点のマークが分かりやすい東書、学図、日文を「優れている」とした。

以上のことから、観点4については、日文を「特に優れている」、東書、学図、光村、廣あかつきを「優れている」とした。

・細川校長

視点②は「主題名の示し方」としているが、県の選定資料では、視点②を「主題名等の示し方」となっている。「主題名等」の「等」をどのように考えているか。

・播磨校長

呉市としての観点、視点、方法を決定した第1回の本委員会後に、県の選定資料が示された。視点②については「主題名等の示し方」となっていた。

県の選定資料の5ページを見ると、「主題名等」の「等」とは、4つの視点を表すマークや内容項目が該当することが分かる。

調査・研究委員会においては、参考として、「等」にあたる4つの視点を表すマークや内容項目についても調査しているが、あくまで主題名が示されているかどうかを調査したうえで、東書、学図、日文を「優れている」とした。

・斎藤校長

特別支援教育やユニバーサルデザインに関する配慮は、どのように分析されているか。

・播磨校長

第1回選定委員会において示した観点、視点、方法で調査・研究されているので、明確な分析はされていないかもしれないが、道徳の教科書というところから考えると、その辺りの配慮は、どの教科書会社でもされていると考えている。

・斎藤校長

巻末の編集者の一覧を見ると、人権や色覚に関わることやユニバーサルデザイン等について研究していることを表記してある者とそうでない者があることが気になった。

・播磨校長

道徳のこれまでの副読本のスタンスから言うと、道徳教育という視点から、そこは大前提でありそういう視点はどこも持っていると考えますが、あえて書いている、書いていないというレベルではないかと考える。

・土井校長

視点⑦について、東書と教出は、教科書を見ると、教材数に付録の5教材も含まれているようだが、扱いとしては、どのように扱っていくように考えるとよいか、もう少し詳しく説明してほしい。

・播磨校長

東書と教出は、付録の5教材を含めて35教材となっている。教出2年生、東書3年生を御覧いただきたい。

教出2年生の目次。上半分に30教材があるが、右下に補充教材を5教材設定している。

東書3年生の目次。右ページ及び左ページの半分までに、メインの30教材があるが、5番、14番、17番、26番、29番については2教材ずつ設定しており、それらを1時間ずつ扱う

ことも可能であるし、2教材を1時間で扱うことも可能である。その場合は、付録教材で補う形になる。

なお、第1回の本委員会でも説明したが、「呉の道徳自作資料集」や各学校で作成した自作教材、「日本遺産を題材とした道徳学習プログラム」における道徳の自作教材も使用することができる。

・九十九校長

視点⑧について、ユニットとは、どのようなものか。

・播磨校長

ユニットには、「いじめ」や「情報モラル」に係る複数の教材とコラムが組み合わされている。ユニットとして扱うことで、生徒が「いじめ」について重点的に考えることができるため、効果的であると考えている。また、ユニットは、目次にまとめて示していたり、色やマークを付けて強調したりしているため、生徒自身も重要な教材として認識することができると考えている。

しかし、ユニットの組み方については、例えば、日文1年生では、3つの教材と2つのコラムを組み合わせている。各者によって違いがある。一度の学習の機会であらう教材やコラムの数があまり多くない方が、扱いやすいと考えている。

・細川校長

視点⑧について、呉市独自で調査した「情報モラル」を扱った教材については、傾向等どのようなものであったか。

・播磨校長

「情報モラル」については、様々な題材が扱われている。例えば、教出の教科書1年生及び3年生を御覧いただきたい。1年生の28ページ「自分で決める」は「ネット依存」、82ページ「ルールとマナー」は「不適切な書き込み」、3年生の18ページ「歩きスマホをどうするか」は「歩きスマホ」が題材となっている。

・細川校長

「いじめ問題」を扱った教材には、どのようなものがあるか。

・播磨校長

「いじめ問題」については、いじめを直接的に扱った教材と、間接的に扱った教材がある。例えば、学図の2年生の教科書を御覧いただきたい。いじめを直接的に扱った教材としては、44ページの「傍観者でいいのか」がある。いじめを受けているAさんを見ている私が、Cさんと一緒に先生に相談に行く場面が描かれており、47ページの「心の扉」には、資料や書き込み欄を設けている。いじめを間接的に扱った教材としては、96ページ「茂の悩み」がある。バスケットボール新チームの先発メンバーに入っている2年生で不器用な正夫を外すように、後輩や副キャプテンから言われたキャプテンが悩む様子、つまり、いじめにつながりかねない状況が描かれている。

いじめを直接的に扱った教材と、間接的に扱った教材については、どちらも、バランスよく掲載された教科書が望ましいと考えている。

・土井校長

今後、評価をしていくにあたって、1時間ごとの振り返りも必要ではないかと思うが、どのように考えているか。

・播磨校長

「学習指導要領解説」には、道徳科における評価の在り方の一つとして、個々の内容項目ごとではなく、大きくりのまとまりを踏まえた評価を行うことがポイントとして挙げられている。したがって、学期に1回程度の振り返りがあれば、教職員が生徒の道徳性や成長を評価するうえで効果的ではないかと考える。

1時間ごとの振り返りについては、教科書に設けてなくても、ワークシート等を使って行うことも可能である。

指導要録にも根拠をもって記載する必要があるため、子供達の変容をきちんと把握しておくこ

とが重要となってくる。

・九十九校長

全体的に見ると、東書と学図は、全ての観点において◎又は○が付いている。また、日文は、観点3以外は◎が付いている。3者の中で大きな差が付いている観点3については、視点⑦の別冊ノートの有無というのも特徴の一つだと思う。日文と廣あかつきにおいて、別冊ノートが付いているということだが、どのような内容なのか、もう少し説明してほしい。

・播磨校長

日文と廣あかつきの1年生。

日文の1年生の教科書10ページと、別冊ノートの2ページ。教科書を見ていただくと、教材の終わりに「考えてみよう」「自分に+1」というコーナーに発問が掲載され、自分の考えなどを書き込むようになっており、教科書の教材と別冊ノートが対応している形になっている。

廣あかつきの1年生の別冊ノート2、3ページ。廣あかつきでは、内容項目ごとに別冊ノートが構成されており、該当する教材については、2ページのタイトルの下に、教材番号が示されている。

同じ別冊ノートでも、以上のような違いがある。

・竹上校長

話がずれるかもしれない。とても丁寧な教科書のつくりになっているのだが、学級や子供達の実態に合わせて、どれ位の裁量を持って教科書を使用することができるのかという点、また、すでに教科書にテーマが書かれていることが、多面的な意見を出し合う上で適切なのかという点において、調査・研究委員会の中で協議はされたのか。

・播磨校長

あくまでも第1回選定委員会で決定された観点、視点、方法で調査・研究されているので、内容の一つ一つに踏み込んではいないが、裁量という点では、教科書はあっても、目の前の子供達にとってどういう切り口で学習指導案をつくるかは指導者の力量によるものである。これまでの副読本と同じような考え方で、どの場面で、どの指導方法で指導することが効果的かを考えるのは指導者である。よって裁量は当然あるものとする。主題名が提示されているという点では、例えば「思いやり」が大切なことはたいていの子供が分かっている。分かっているでもできないのが現実である。だから、子供達が、なぜ分かっているのにできないのか、なぜできるのか、なぜ分からないのかを授業でしっかり議論する中で、いろいろな見方や考え方を自分なりにとらえることが大切である。

・竹上校長

テーマが提示されていても、子供達から多様な意見が出た時に対応できるような柔軟な授業を展開することを考えることが大切であるとする。テーマが提示されていることで、多様な意見や考えが出なくなるのではないかという心配をどう払拭するかという点も大切であるとする。

・播磨校長

そういう心配が払拭されているかどうかは学級経営にかかっているという整理はこれまでもされてきた。開かれた、自分の思いがしっかり言える、何でも受け止められる学級経営、学級づくりと道徳の授業はセットであるとする。

・斎藤校長

今の意見に関わって、意識と行動のずれ、つまり分かっているけど行動にうつせない自分との葛藤とかジレンマを感じたり、人間関係などの様々な要因で正しい行動に自分を導くことができなかつたりするところで、テーマを示すことで、どう心を耕していくかというところが道徳と生徒指導の表裏一体の部分なのではないだろうか。社会性を身に付けていく上で道徳は不可欠である。テーマを表に出して、“今日は命について考えるよ”と潔い授業をするということも教科化した時に、意識付けしていく必要があるのではないだろうか。そういう解釈でよろしいか。

・播磨校長

道徳の教科化が出てきた要因に、国の動きであるが、道徳の授業が道徳の授業になっていない、だからしっかりと道徳の授業ができる教員を育てなければならない、そのためには教科化しなければならない、ということがあった。そこには、いじめや自殺の問題や生徒指導上の背景が当然あったと思う。教員も力を付けなければならない。例えば、道徳の授業をしても、子供はすぐに良い行動できるわけではない。良い行動をしようとする意欲は生まれたけれど、まだ行動にはうつせないが、いつかは行動にうつせる日が来るだろう、というように子供の成長をたおやかに見つめる指導者であってほしい。また、よくあるパターンでは、導入で自分自身を自覚させ、自分は主人公のような行動はできないが、主人公はなぜできるのかをしっかりと考えさせるというように、“なぜ”をキーワードに自分自身と対比させる授業をしてほしい。つまり、“〇〇できたらいいいね”とさらっと授業をしてしまえば、結局は“分かっているけどできない”となってしまう。どれだけ考え議論する道徳の授業を指導者ができるかが大きな課題である。

・松田校長

全体的に見て、テーマをぼやかしてある教科書は教出かもしれない。どの教科書も、目次を見れば、どの内容を学習するかが分かるようになっている。ということは、教科書全体が“今日はこのことについて考える”ということが分かった上で授業を行う流れになってきているということ。皆さんの意見を伺って感じた。気をひきしめて授業を行わなければならない。

・細川校長

先ほど、別冊ノートがあるとしぼりがあって難しいのではという意見があったが、この程度の内容なら、そんなにしぼりはないのではないだろうか。皆さんいかがだろうか。

・松田校長

それは日文の方だろうか。廣あかつきのものとはずいぶん違う印象がある。

・細川校長

廣あかつきの場合、生徒に書かせる場面が多くなるのではないかと思う。一方、日文の別冊ノートであれば、教科書に掲載されている2つの発問について、自分の考えを書き込む形になっているので、生徒にとってもそれほど負担ではないと思う。

・松田校長

別冊ノートの有無が選定に影響するレベルのものだろうか。率直な御意見をいただきたい。細川校長から出された意見では、この程度なら内容的には負担はないのでは、ということであったが、御意見はないだろうか。

司会者ではあるが、自分の意見としては、評価をする時に、いろんな形のワークシートよりは、別冊の方が良いのではないかと感じた。

いかがだろうか。

・播磨校長

調査・研究委員会からは、別冊がない方が良いのでは、という意見が上がってきているが、細川校長が言うように、この位だったら、というのが個人的な意見である。

この2種類の方（別冊）は、これまで使っていたワークシートのようなものである。ただし、廣あかつきの方がかなり踏み込んでいる、かなりレベルが高いというか、これを扱うとしたら相当知恵をしぼらなければいけないという感じはする。

◎ 全体を通して質疑応答

・松田校長

全体を通してどうか。質問に関してはほとんど播磨校長に答えていただいた。意見については、本時の内容項目が分かるように示してあることについて、どこも同じような傾向があるが、それでも強弱がある。それらをどう捉えるかということ意見をとして考えていかなければならない。もう一つは、別冊をどう捉えるか。この2つが今日の協議の大きな柱だったと思う。

◎ 原案の修正箇所等を明らかにする

・松田校長

他によろしければ、今回の中学校「特別の教科 道徳」の総合所見の案について、本日の意見等を受け、次回第3回選定委員会までに、全ての視点の評価案も含め、加筆・修正したものを再度提案していただく。

◎ 出席者から意見・感想

・山本副委員長

非常に分かりやすくまとめていただいて御苦労があったことだろう。

P T A連合会として、先月、母親部会で道徳の勉強をした。広島大学の先生を招いて、実際に模擬授業をやった。先ほどの話にもあったように、いろんな意見が出て、答えがなかなか出にくい場面があった。答えが出ないという授業展開になる可能性が高く、先生方も悩んでおられることだろう。模擬授業では答えが二分した。この先は、保護者と児童生徒が一緒にお考えくださいということになった。こちらの教科書にも「ご家庭で子供達と一緒に問題についてお考えください」と書いてあった。今、殺伐とした、いろいろな事件がある中で、このような道徳の勉強をしていれば何とかなったのではとか、自分本位の行動でこの事件が起きたとか、いろいろあると思うので、先生方には御苦労をおかけすると思うが、ぜひとも子供達が自分の考えを主張できるように育てていただければと思う。よろしくお願ひしたい。

・吉長教授

播磨校長はワーキングの中で大変なお仕事をされた。感服している。

竹上校長からお話があったように、道徳は、ノートがあつて教科書があれば答えを写せるというようなものではない。

医学部で勉強していると、先に診断名が出て、何種類も（資料を）もらうが、いざ診察室に行つて聴診器を当てると、全く逆の方向に進むことがある。臨床というものはそういうものである。道徳はそれと似たようなところがある。結論からして、言いにくいが、道徳の担当の先生にはなりたくない。それ位非常に運用が厳しいと思う。

逆に、山本さんの話のように、家庭で活用するというのが大事な場面だと感じる。

◎ 閉会

久保主任指導主事が次回以降の予定について確認して、会を終了した。

平成30年度第3回呉市教科用図書（中学校「特別の教科 道徳」）

選定委員会 会議録

日 時	平成30年8月20日（月）15：00～16：30	
場 所	呉市役所7階 756～758会議室	
参加者	呉市立中学校長会長	松田 恭尚（昭和北中）
	選 保護者代表	山本 浩司 吉中 由美子
定 学識経験者	吉長 成恭	
	委 校長	大平 栄子（両城中） 細川 司（安浦中） 大下 孝之（仁方中） 土井 忠則（東畑中） 斎藤 美由紀（警固屋中） 竹上 和徳（呉中央中） 九十九 尚志（横路中） 荒谷 政俊（豊浜中） 湊 和昭（阿賀中） 上垣内 雄治（郷原中） 播磨 寛宗（片山中）
会 学校教育課長	高橋 伸治	
	安部 ほずみ	
	島藤 晃	
	川原 亜弥	
	久保 由佳利	
	藤井 眞實	
傍聴者	船尾 慎（教育委員） 香川 治子（教育委員）	
内 容	1 第2回選定委員会の協議結果についての確認 2 議事 (1) 平成30年8月20日付け「総合所見（案）」について	

◎ 開会

久保主任指導主事の司会で委員会は定刻に始まった。

平成30年度第2回呉市教科用図書（中学校「特別の教科 道徳」）選定委員会での協議等を踏まえて、加筆・修正等を行った総合所見の案について検討し総合所見を完成させることについて資料に基づき、久保主任指導主事から説明があった。

司会を議長（松田校長）に交代し、事務局からの説明を促した。

1 第2回選定委員会の協議結果についての確認

◎ 事務局説明（安部課長補佐）

第2回の選定委員会の協議結果について確認する。協議内容は、「総合所見（案）」について、道徳部会代表の播磨校長から提案があり、それについて委員の皆様から、御質問や御意見が出された。

それを踏まえて、選定委員、道徳部会代表の播磨校長先生が加筆・修正したものが、本日机上に配付している平成30年8月20日付け「総合所見（案）」である。この後、播磨校長から御提案いただく。

◎ 事務局説明についての質疑・応答

なし

2 議事 平成30年8月20日付け「総合所見(案)」について

・ 議長(松田校長)

道徳部会代表の播磨校長が8月2日に説明した「総合所見(案)」を加筆・修正した総合所見の(案)について検討していく。本日は、教育長に報告する総合所見を完成させる。

それでは、総合所見の(案)について、審議していく。審議の前に、前回同様に、総合所見の(案)を読む時間を取るが、先程の事務局からの説明通り、前回の協議を踏まえて加筆・修正された箇所を中心にみていけたらと思うので、主な変更点について、説明していただく。

・ 播磨校長

総合所見(案)の後半のA3の資料を御覧いただきたい。

前回協議したこと等も含めて見直しを行い、加筆・修正した箇所は、1枚目【観点1】の視点②、3枚目【観点3】の視点⑦及び視点⑧、5枚目【観点5】の視点⑩である。以上を加筆・修正している。まずは、それらを中心に読んでいただきたい。

・ 議長(松田校長)

今説明された箇所を中心に、資料を読む時間を取る。(15時20分まで)

・ 議長(松田校長)

時間になったが、もう少し時間が欲しい方はいるか。

(なし)

それでは、道徳部会代表播磨校長に説明をしていただく。

・ 播磨校長

第2回選定委員会を受けて修正した総合所見(案)について、各発行者の差違をより明確にした方がよい視点や、もっと詳しく説明した方がよい視点、再度、各発行者について見直しを行い、修正した点について、説明する。

なお、説明の中で、必要があれば、手持資料に書き込んでいただき、後ほど十分協議をしていただきたい。

・ 播磨校長

はじめに、視点②の「主題名の示し方」について、説明する。A3版の観点別の資料、1枚目【観点1】「基礎・基本の定着」を御覧いただきたい。

視点②「主題名の示し方」については、東書、学図、日文を「優れている」としていたが、もう一度、各発行者について見直したところ、廣あかつきについては、教科書には主題を示していないが、別冊ノートには主題を示しているため、「優れている」とした。よって、視点②については、東書、学図、日文に加え、廣あかつきも「優れている」とした。

ここで、「主題名の示し方」について、各者の例を紹介する。これから4つの発行者の該当ページを知らせるので、まずはお聞きいただきたい。いずれも教材は「足袋の季節」という教材で、「主題名の示し方」の例を示す。東書3年生の教科書110ページ、学図3年生の教科書168ページ、日文の2年生の教科書168ページ、廣あかつき2年生の別冊ノート50ページをお聞きいただきたい。

東書では、主題名を「弱さと向き合って」と示し、「変わらないことはあるかな。」と問いかけている。また、学図では、主題名を「良心に従って生きる」と示すとともに、その右側に、内容項目

のキーワード「よりよく生きる喜び」も示している。さらに、日文では、教材名の上に、主題名を「強く気高く生きる」、廣あかつきでは主題名を「良心に気づき、よりよく生きる喜びを見出す」と示している。

さて、第2回の選定委員会では、「主題名が書かれていることで、多様な意見が出にくくならないように留意する必要があること」や「主題名が書かれていても、生徒の意識と行動のズレを切り口に授業を構想していけばよい」等の意見が出された。

ここで、道徳科の目標について確認させていただく。道徳科の目標として、学習指導要領には「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」ことが示されている。つまり、主題や内容項目について理解することはもちろん、それらを基にして考える学習を通して、道徳性を育むことが大切であることが書かれている。これらのことから、主題を明示したうえで自分の考えをより深く考える道徳科の授業につなげるとともに、主題を示すことで生徒が見通しを持ちながら学習に取り組むことができるとの考えから、東書、学図、日文、廣あかつきを「優れている」とした。

視点②を修正した結果、【観点1】については、東書、日文を「特に優れている」、学図、廣あかつき、日科を「優れている」とした。

次に、視点⑦の「分量や教材の数」について、もう少し詳しく説明させていただく。A3版の観点別の資料、3枚目【観点3】「内容の構成・配列・分量」を御覧いただきたい。

前回の総合所見の案では、視点⑦「分量や教材の数」については、別冊ノートがなく、教材の配列にしぼりのない方が、学習展開や年間指導計画を柔軟に設定しやすいとの考えから、東書、学図、教出、学研を「優れている」としていた。

第2回の選定委員会では、別冊ノートが付いている日文と廣あかつきの2者について、廣あかつきの別冊ノートは、生徒に書かせる場面が多くなるのではないかという意見、日文の別冊ノートは、教科書に掲載されている2つの発問について、自分の考えを書き込む形になっているので、生徒にとってもそれほど負担ではないのではないかという意見が出された。

そこで、別冊ノートそのものの有無、有り無しではなく、別冊ノートの構成の観点から評価を見直し、今回の案では、視点⑦は、東書、学図、教出、学研に加え、日文も「優れている」とした。

なお、総合所見には、別冊ノートの構成についても記述を加えている。

続いて、視点⑧の「現代的な課題等を踏まえた内容の示し方」について、もう少し詳しく説明する。先ほどに引き続き、A3版の観点別の資料、3枚目【観点3】「内容の構成・配列・分量」を御覧いただきたい。

前回の総合所見の案では、視点⑧「現代的な課題等を踏まえた内容の示し方」については、「いじめ問題」及び「情報モラル」に係る教材や特設ページをバランスよく設定している方が望ましいとの考えから、東書、学図、教出を「優れている」としていた。

総合所見には、「いじめ問題」や「情報モラル」を扱った読み物教材について、全学年における教材数を示している。「情報モラル」を扱った読み物教材の数については、全学年で4～7教材であり、発行者によってあまり差はないが、「いじめ問題」を扱った読み物教材の数については、全学年で7～24教材であり、発行者によって差があることが分かる。

第2回の選定委員会では、「いじめ問題」を扱った読み物教材については、「いじめ問題」を直接的に扱ったものと、間接的に扱ったものがあることを、学図の例を紹介しながら説明したが、「いじめ問題」を直接的に扱った読み物教材についての教材数を調べてみると、全学年で3～9教材であった。「いじめ問題」については、さまざまな側面から考えることはもちろん、生徒が「いじめ問題」に向き合い、より自分のこととして考えさせることが大切だと考えており、「いじめ問題」を直接的に扱った教材を使用することは、効果的だと考えている。そこで、「いじめ問題」を直接的に扱った教材が各学年に複数あり、特設ページやユニットなどの工夫があれば、現代的な課題等について考



えさせるうえで効果的であるとの考えから評価を見直し、東書、教出、光村を「優れている」とした。

なお、総合所見には、「いじめ問題」を直接的に扱った読み物教材が各学年に複数ある発行者には、そのことを加えている。

視点⑦及び視点⑧の総合所見を修正した結果、【観点3】については、東書、教出を「特に優れている」、学図、光村、日文、学研を「優れている」とした。

最後に、視点⑩の「考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫」について、説明させていただく。A3版の観点別の資料、5枚目【観点5】「言語活動の充実」を御覧いただきたい。

視点⑩「考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫」については、東書、教出、日文を「優れている」としていたが、もう一度、各発行者について見直したところ、廣あかつきについては、学期ごとの振り返りがあるので、「優れている」とした。よって、視点⑩は、東書、教出、日文に加え、廣あかつきも「優れている」とした。

廣あかつき2年生の別冊ノートの終わりにある「心のしおり」を御覧いただきたい。「心のしおり」には、各学期ごとに、伸ばしていきたいことや今後の目標、その裏側には、学期ごとに振り返りを書き込むようになっている。

視点⑩の総合所見を修正した結果、【観点5】については、教出、日文、廣あかつきを「特に優れている」、東書、学図、日科を「優れている」とした。

なお、その他の視点については、第2回の選定委員会で示した総合所見と同様である。

以上で、総合所見（案）についての説明を終わる。

・ 議長（松田校長）

質問・意見があればお願いします。

・ 細川校長

視点②主題名を示すかどうかについて、道徳科の目標も確認しながらの説明で、よく分かった。第2回の選定委員会でも意見が出されたが、主題名や内容項目については、中学生はある程度理解できる。大切だと分かっているのになかなかできないといったこと等について、「考え、議論する」ことが、深い学びにつながるという授業を構想していかなければならないと再認識することができた。

ただ、東書の主題名は、字が大きいので、教材名と間違えてしまいそうな感じも受けるが、みなさんはどう思うか。

・ 議長（松田校長）

いかがか。意見をお願いします。皆さんの今の反応から、そんなに気にはならないというという感じも伺えたが、意見をお願いしたい。

主題名があまりにも強烈に出過ぎるのも、第2回の時にデメリットにもなるという意見が出た。他の者とは違う形をとっていることは明らかである。いい、悪いという判断はできないということで、よろしいか。

・ 九十九校長

前回もノートについてお聞きしたが、視点⑦日文の別冊ノートには、1番上に点線で囲まれた枠があるが、どんなことを書き込む欄なのか。

・ 播磨校長

日文の別冊ノート2年生を御覧いただきたい。表紙の裏側に、目次と「道徳ノートの使い方」が示されている。御質問いただいた点については、①を見ていただくと、「先生の言葉や、気づいたこ

となどを自由にメモしよう。」と書かれてある。

・ 議長（松田校長）

よろしいか。

・ 九十九校長

導入や基本発問を通して、自分を振り返らせることや、考えさせたいことについて書き込むことができ、柔軟な扱いができそうだ。また、教材の終わりの「考えてみよう」や「自分に+1」があり、示された発問に対して別冊ノートにおいて、自分の考えなどを書き込む欄がある他に、「考えてみよう」については、友達の意見や話し合いの内容をメモする欄があったり、一番下には、1時間の振り返りをする欄もあったりするので、使いやすいノートではないかと感じた。

・ 議長（松田校長）

他にはないか。

・ 山本副委員長

保護者としては、「いじめ問題」や「情報モラル」についての関心が高い。第2回も今回も「いじめ問題」や「情報モラル」を扱った教材について詳しい説明があったが、昨今色々な流れの中で、例えば「ネットいじめ」という問題を扱った教材があったかどうか、詳しく聞かせてほしい。

「いじめ問題」「情報モラル」別々ではなく、両方に関連する教材ということである。

・ 播磨校長

A3版の観点別の資料、3枚目観点3「内容の構成・配列・分量」を御覧いただきたい。視点⑧に、「いじめ問題」や「情報モラル」に係る教材数をまとめているが、この教材数は延べ数であり、東書、学図、光村、日文、学研、廣あかつきの6者では、「いじめ問題」と「情報モラル」の両方が関連した教材もある。

例えば、東書の3年生の教科書、28ページを御覧いただきたい。「ある日の午後から」という教材がある。昼休み、友達の沙希に対して、外に遊びに行こうと誘ったところ、断られた主人公のひかるが腹を立て、帰宅後にSNSに書き込みをする。その書き込みを見た周りの生徒が、ひかるに同調した書き込みをし、沙希に話しかける友達がなくなる様子が描かれている。このような形で、両方を関連させた教材も中にはある。

・ 議長（松田校長）

よろしいか。

・ 山本副委員長

第2回の選定委員会の終わりに、PTAの研修会において道徳の模擬授業を受けた話をしたが、「いじめ問題」や「情報モラル」については、保護者にとっても、最大の関心事として挙がっていた。特に「ネットいじめ」を題材とした道徳科の授業を参観日として行っていただくと、親子で話ができるきっかけとなる。また学級通信・学校通信でも紹介していただくことで、親子で問題をクリアできると思う。過去にも「ネットいじめ」で自殺をするなどの問題もあったので、これらのきっかけとして是非「いじめ問題」と「情報モラル」の両方を扱った教科書の選定をお願いしたい。

・ 議長（松田校長）

よろしいか。他にはないか。

・ 土井校長

学校でも授業参観で道徳を参観してもらう機会を、年1回設けている。新しい教科書において、保護者を意識したコーナーやページとしては、どのようなものがあつたか。

・ 播磨校長

いくつかの例を示す。

学図の3年生の教科書の223ページを御覧いただきたい。ここでは、「保護者の方へ この教科書で目指すこと」として、四つの視点ごとに目指すこと及び教材名が示されている。また、教出の3年生の教科書176ページを御覧いただきたい。ここでは、「そして、未来へ」として、家の人から言葉をもらうコーナーが設けられている。さらに、日文の2年生の教科書の終わりから2ページ目を御覧いただきたい。ここでは、先生や保護者に対し、教科書を使って子供と一緒に考え、話し合うことを促している。また、日文の別冊ノートには、40ページに保護者記入欄を設けるとともに、裏表紙にノートの意義について示している。そして、東書、光村の教科書の裏表紙には、保護者に対し、教科書を使って子供と一緒に考え、話し合うことを促している。

・ 土井校長

中学生ともなると、なかなか保護者に学校の事も話さなかったり、教科書を見せたりしなかったりする中で、今の指導の流れ、教科書のつくりもここまで踏み込んで保護者を巻き込んでいる。これまでの指導では、あまり馴染みがない教員も、このような方向性で指導してみようとするのではないかと思う。

・ 九十九校長

保護者に対し、色々な教科書が“子供と一緒に話し合ってください”などが表記されている中で、日文のノートには一番後ろに学期ごとに保護者の記入欄があり、話し合っただけを文章にして残ることや提出することで、実際に話し合っているかどうか分かる。その配慮からも、日文は優れていると思う。

・ 議長（松田校長）

その他意見はいかがか。PTAの吉中さんはいかがか。各立場からの御意見をお願いしたい。

・ 吉中保護者代表

親として、教科となった道徳科にどのようにかかわっていくのか、ということに関しての研修を行った。実際私達が子供の時に勉強している道徳と、今の道徳の目的、内容としては同じ部分もあるが、違う部分もあると思う。このような勉強の場や、先日の研修会に参加した親のように、“道徳は、このような方向で進めていくもの”とある程度の理解ができている者には、コメントすることもできる。しかし、このような方向を全く分からない状況で、子供が持ち帰っても、どういう方向で話し合えばよいのか、道徳の授業でどのようなことを習ったのか悩んだり迷ったりする保護者もいると思う。

選定された教科書に保護者欄が設けてある場合、事前に保護者に対して、ある程度どのような目的でどのような教材を使用するのかということを知っていただかなければ、教員・保護者・子供たちが関わっての道徳の勉強の目標を達成することは難しいのではないかと感じる。中学校になると、親に教科書を見せる機会は全くなくなるので、連携がないと、道徳の教科書を見ないまま一年を過ごしてしまう。

・ 議長（松田校長）

ありがとうございました。保護者と学校が連携しないと実を結ばないところもある。当然、学校も力を入れていかなければならないと感じる。

・ 細川校長

【観点5】、観点⑫について。第2回の選定委員会で、振り返りについては、学期に1回程度の振り返りがあれば、道徳性や成長を評価するうえで効果的ではないかという説明があり、今日の説明では、東書、教出、日文、廣あかつきの4者が「優れている」ということだったが、この4者の中では、どのような違いがあったか。

・ 播磨校長

「学期に1回程度の振り返り」について、それぞれの発行者の例を紹介させていただく。廣あかつきについては、先程の別冊ノートの「心のしおり」に示されていたので、これから3つの発行者の該当ページをお知らせする。まずはお聞きいただきたい。東書の3年生の教科書185ページ、教出の3年生の教科書174ページ、日文の2年生の別冊ノート40ページである。

東書は、授業の取組についての自己評価、心に残った教材、学んでよかったこと、来学期の道徳科の授業の取り組み方を書き込む切り取り式のページを設けている。教出は、印象に残った教材及び考えたことを書き込むようになっている。日文は、印象に残った学習とその理由及び保護者記入欄が設けられている。

4者とも、教材についての振り返りがあることは共通しているが、自己評価や保護者記入欄の有無及びページ数に違いが見られる。

・ 細川校長

意見として。東書の場合、教材や学習内容の振り返りだけでなく、学んでよかったことや、来学期に向けての思いも書くことができるという意味で、充実していると思う。また、先ほど説明があったが、日文の保護者記入欄も効果的だと思う。

・ 土井校長

大きくりの評価をするうえで、学期に1回程度の節目での振り返りがあれば、1年間を振り返る際にも、学習したことや成長に気付き役立つのではないかと思う。また教員としても、1ページにあれば、生徒の成長を見取るときにいいのではないか。

・ 議長（松田校長）

その他意見はあるか。

（なし）

それでは、全体を通して、御意見、御質問等はないか。

・ 竹上校長

非常に教科書が丁寧で作られている。これからは教科書を使って道徳の授業を行うという流れはよいが、一方では、広島県や呉市が大事にしてきた自作資料、目の前にいる子供達の課題に応じて内容項目の重点化を図るといった、学校の努力の中で道徳を工夫、改善してきたという流れも大切にしなければならないのではないか。

これまで大事にしてきたところと、教科書を使うところでの、整合性、かかわり方、接点というところも考えなければならない。ある面、教科書は非常にいいつくりをしているので、学校の先生方がそれに縛られてしまう、その通りにやらなければならないといった思いに縛られすぎないかという懸念がある。実際、保護者の記入欄を一つ挙げてみても、現実問題、保護者に記述を求めるだけの実践が積み重ねられるかということ、なかなか厳しい。教科書として、非常にいいつくりをして

いるし、流れも学校の先生方が実践するには懇切丁寧な教科書だと考えるが、その部分と、これまで広島県や呉市が大事にしてきた自作資料等、学校努力で内容項目の重点化を図り年間指導計画をつくっていくという実践との融合を大事にしなければならないことを意見として述べる。

#### ・ 播磨校長

これまでの選定委員会でも話し合われてきたように、3.5教材があるとして、年間3.5時間全てその教科書というしかりまでは現段階では国の方は出していないと思う。やはり、県や呉市が作った自作資料、さらには各学校が独自で作った自作資料、そういったものも、年間指導計画に位置付けていくことは大切である。ただし、その際には過去の学習指導案はそのまま使えない。内容項目の示し方も若干変わっているの、そこはもう一度読み解いて、分析し直して実施するのは当然必要だと考える。

今回の選定委員会が最後なので、現在副読本のどこがシェアがあるのかを調べてみたので、参考までにお伝えするが、一番多いのは廣あかつきであった。26校中20校程度である。複数使用している学校もあるので、必ずしも26分の20という訳ではないが、今まで使って慣れてきた教材以外にチャレンジしていかなければならないということも考えられるので、今後は先生方の力量が問われる。保護者記入欄も本当にやるのは難しいとは思いますが、難しいからやらないのではなく、やってみて難しい、だからどうすればさらによくなるか、積み重ねていくしかないと思う。家庭や地域といかに連携していくかということは、道徳に限らず学校教育において必要な部分なので、部会としても頑張っていかなければならないと考える。廣あかつきを見ていて、馴染みもあって面白いなど思える資料が、他の発行者に入っていない部分もあるが、その中には、国や各都道府県が作った資料もあるので、年間指導計画に取り込むことはできる。

#### ・ 議長（松田校長）

どこの市町でも、また道徳だけではなく他教科でも、呉の子供の実態と呉市でこれまで積み上げてきた教育に、新学習指導要領の方向性を合わせて授業づくりを毎回見直していくという必要性がある。採択とは直接関係ないかもしれないが、その必要性があるということを確認しておきたい。よろしいか。

#### ・ 土井校長

最後に一つ。吉中さんが言われた意見の中でなるほどと感じた。年度当初の早い段階で、どのような教科書になっても保護者にも一緒になって考えていくことを、周知していかなければならない。そこで一つ聞きたいのは、小学校はどのような進め方をしているのかを知りたい。保護者も巻き込んだことはあるか。

#### ・ 播磨校長

学習指導要領でそのように示されているので、小学校でも同様。2年前、呉で道徳の県大会をしたときには、和庄中学校の方では“おやじの会”というので資料を使って、8つのグループに親父が入って一緒に授業をやっていたという、面白い取組であった。活用の仕方について、最初に何らか家庭との連携が必要だと考えた。

#### ・ 斎藤校長

道徳の授業として、展開していく時に、心情面の事前の配慮ということを考えることがある。以前、我々が若かった頃は、民族問題や障がい者問題等、様々な分野によって配慮を要する子供・御家庭に事前に家庭訪問をして、こういう教材を扱って、こういう取組をやっていくということを、先輩の先生に教えていただいてやっていった。

今は、テーマ別に国際理解や人権・いじめに関しても様々な幅広いことがあり、福祉ボランティ

アや性教育色々なことがあったが、それが今一緒になって道徳という形で授業をしていく。先程、吉中さんの話を聞いた時に思ったのだが、授業する先生方が配慮すべき点を考えていく、学校の体制の中で考えていくということをどのように受け止めて進めていけばよいか。

#### ・ 播磨校長

個人的な見解ではあるが、配慮すべきだと考える。検定教科書であるので、どの資料も大丈夫であると示しているため、過去ほどナーバスになることもなく、国が検定しているものなので安心感はある。しかし、細かい部分では、子供があつての話なので、子供の実態により学級によって指導案は変わってくる。子供の実態、家庭、地域の実態を踏まえていくと考える。今でも、母親や父親からの手紙を扱う際には家庭の実態を意識して、配慮してやることが大切だと考える。

#### ・ 斎藤校長

今、播磨校長が言われたように、勿論国の検定を通った教科書を使っていくとはいえ、以前と同じように心情面への配慮は必要であるということを前提に進めていくことが大切だと考えた。

#### ・ 議長（松田校長）

他に意見はないか。

#### ・ 吉長教授

感想ではあるが、播磨校長をはじめ、道徳の教科用図書の調査・研究をした先生方に感謝申し上げる。非常に精緻な研究・調査だと思う。

実は私は教員の仕事を始める頃に、教員とは何なのかよく分からないこともあり、その頃に出会った小さな本『後期中等教育の拡充について』という当時の中教審が答申を出しているものを読んだことがある。昭和41年、今から52年前となると、私が中学2年生の時である。そのときに期待される人間像というものを出している。その時に道徳について書いてある。これから宇宙開発や色々なことが進んでいくが、今まではどちらかというと、縦の糸の道徳“目上の人を大事にする”等という道徳だった。

これからは、知的な技術教育も必要だが、横の道徳、価値も必要だとある。この縦糸と横糸の織りなすところに人の人間性というものがあり、そこに良心というものがあるのではないかという答申をしている。そのことが私の教員生活のスタートとなった。

今回見てみると、割合横糸のテーマの話が多いと考える。中教審の答申の最後には、“道徳を教える教員の力量”を置き換え、“期待される道徳教育像”という結論が小さな本に書いてあった。今日は、その通りのことが出てきた。50年前の中教審の考え方から、縦糸、横糸、いじめやSNSの価値は横糸の時間が経ったものであり、介護や赤ちゃんや年寄りを大事にするということは縦糸だと理解した。

自分も孫を育てる時期になり、家庭教育と学校教育とが一緒になって地域全体で頑張っていかなければならない道徳という科目ということを認識した。感謝したい。

#### ・ 議長（松田校長）

その他意見はあるか。

本日の協議から、吉長先生の話にもあったが、どの教科書になっても教える側の力量の向上、そして、当然どの教科書になっても教科書を使用する上で配慮すべきことはきちんと配慮するということは大切であろうということがあった。

ただ、この報告、総合所見（案）について加筆・修正は特に出なかったと思うが、それによろしいか。

◎ 中学校「特別の教科 道徳」の総合所見（案）については、原案通り教育長へ報告する承認を得る。

・ 議長（松田校長）

この報告、総合所見（案）については、承認されたものとする。この報告書で教育長に報告する。全ての協議を終了するので、事務局にお返しする。

◎ 閉会

久保主任指導主事が会を終了した。